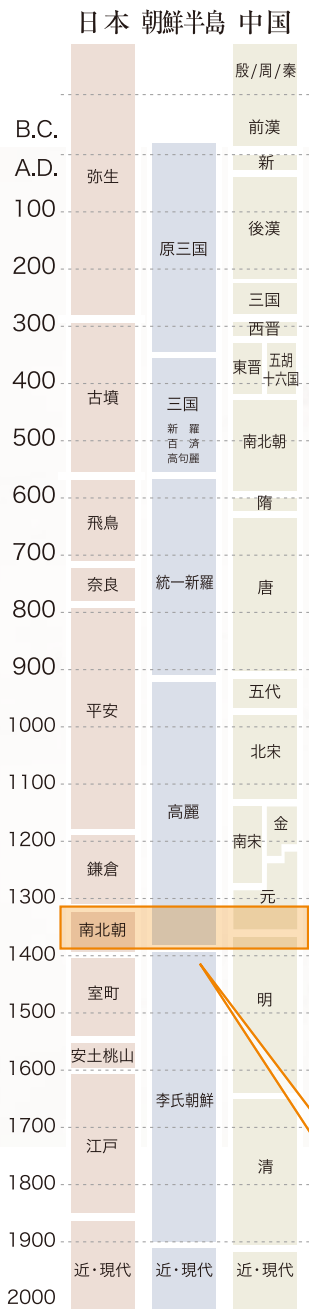


東アジアの時代背景



悲劇のドラマ クライマックスの舞台は八女

鎌倉幕府が倒れ、後醍醐天皇がしいた建武の新政も、足利尊氏らの離反により終わりを告げます。吉野に逃れた後醍醐天皇の南朝と、足利尊氏が京都に光明天皇を擁立した北朝に分かれ、正統を争う南北朝時代が約60年間続きました。その終わりの頃、北部九州は壮絶な戦いの舞台となりました。奥八女には征西將軍宮・懐良親王や南朝最後の親王である後征西將軍宮・良成親王の御陵墓ほか、ゆかりの地が数多く残っています。

朝廷が南朝と北朝に分かれた特異な時代。
北朝を支えた足利尊氏が室町幕府を開く

建武の新政

鎌倉時代末期、後醍醐天皇が全国の武士に倒幕を呼びかけた。新田義貞、楠木正成らの働きで倒幕、後醍醐天皇による新政が始まった。

南北朝時代

足利尊氏の離反で建武の新政が途絶え、尊氏が擁立した光明天皇(北朝)と吉野にこもった後醍醐天皇(南朝)に分かれて約60年間、正統を争うことになる。

九州での情勢

新田・北島軍に敗れた足利尊氏は、九州に下って芦屋に上陸する。

太田清水の戦

南朝方の菊池氏らと北朝方の少弐氏らの戦い。多々良浜の戦の前哨戦となる。

「志村」は「血村」か？
船小屋近くの志村は戦いで多くの血が流れ血村といわれるようになった。後に、地名は縁起の良いものにと、志村と代えたとも。

多々良浜の戦

足利勢1000人以下、菊池勢2万人。勝敗は明らかに見えたが、風が激しくなり風下の菊池勢には目も開けられない砂嵐が吹き付けて菊池氏は敗走したとも。

北朝方の太宰府、南朝方の菊池、どちらが端を登しても八女丘陵は中間地点だったので、幾度も戦場となった。

征西將軍宮

吉野の後醍醐天皇は皇子たちを各地に派遣、九州へは第16皇子の懐良(かねなが)親王に全権をゆだね征西將軍宮として派遣した。8歳の親王が吉野を出発した時から側で仕えた五條氏が、ともに九州でドラマを生んでいく。

懐良親王、鹿兒島上陸

吉野を出発後、四国を経て薩摩半島山川に上陸、谷山城を拠点に北上を開始。以後、肥後の菊池氏が支え続ける。

7~8歳の男子は神=幸運が最も寄りつくといわれる

肥後隈府(わいふ)に到着

戦い続けて北上、ようやく菊池氏の本拠に到着。このときすでに懐良親王19歳。大宰府の少弐氏と争いながらクライマックスへと向かう。

伝説の武将・菊池武光勇猛でならず武將。数々の伝説を残す。大保原の戦の戦場となった現・大刀洗町に、勇ましい銅像も建つ。

大保原の戦

筑後川をはさんだ最大の合戦。激しい戦いを終え、菊池武光が川で血刀を洗うと川は刀の血で朱色に染まったという伝説が「大刀洗」の地名の由来。親王が陣をしいたところが「宮の陣」など、ゆかりの地名が今も残る。

大宰府に征西府を置く

懐良親王は御在所を大宰府におき菊池武光が補佐。南朝の黄金時代が12年間続く。

京より今川了俊が九州へ

九州探題に任命された了俊に追われた懐良親王は、久留米・高良山へ敗走し、さらに星野・矢部の奥地へ。

南北朝の合一

1392年、南朝の後龜山天皇が皇位の象徴である三種の神器を北朝の御小松天皇に譲り「南北朝合一」が実現。

南朝最後の親王・良成親王が眠る大杉御陵墓

懐良親王は甥の良成親王に征西將軍職を譲り、奥八女で余生を送る。南朝最後の良成親王も矢部で余生を送り、今も宮内庁陵墓「大杉御陵墓」で眠る。

九州統一を夢見た。激しく戦い、散った。南北朝時代、奥八女のドラマをたどる